

園だより



—安全の意識を高めるために—

第一幼稚園 第2号 2016. 7. 1.

本園では子ども達に“自分の命は自分で守る”ことの必要性を、日々、様々な場で具体的に伝えています。室内での遊びや生活が多くなる本格的な梅雨の季節を迎えた今、『安全な生活』について、子ども達と再確認しているところです。

登園後の自由な遊びの時間帯においては、戸外に加え、雨天でもボール・フープ・マット等で体を存分に動かす楽しさを味わえるピロティを始め、ドラム・電子オルガン等で音やリズムに親しむことのできるホワイエ、更には、ままごと・ブロック・大型滑り台・絵本といった2階の各コーナーで毎日多くの子ども達がかかわって遊んでいます。このように異年齢の子ども達が毎日時間と空間を共有することで自然な伝え合いが生まれ、色々なところで微笑ましい光景が見られます。また、安全に関しても、年上の子どもが小さい子ども達のことを考えて行動するなど、思いやりやいたわりの気持ちが徐々に大きくなってきたことを感じる今日この頃です。

今後も互惠性のある異年齢活動が安全で楽しく、より充実したものとなりますよう、全職員で常に環境を工夫し、約束ごと（決まり・ルール）がなぜ大切なのかに子ども自身が気づき、意味を理解して行動できるよう努力を続けてまいりたいと思います。

更に、今なお続く余震を受け、実際に園での活動中（自由な遊びの時間帯・一斉活動中・バス乗車中など）に地震に見舞われた際に、子ども自身が自分の身を守るためにはどのようにしたらよいのか考え判断できるように、様々な場面を想定した訓練を定期的実施しています。

火災・地震・バス等での避難体験を通して、子ども自身が命の守り方を学んでいるところです。

保護者の皆様もご家庭におかれまして、常に、今何か起きたらどうするのかを意識していただくことが、子ども達を守ることに繋がると考えています。引き続きご協力をお願いいたします。



日常生活において階段は右側通行。こうすると階段を安全に登り降りできる（ぶつからない）ことを分かって行動しています。



年長組の真似をしたくなり、順番を待って（並んで）ドラムを叩く1歳児。自然な伝え合いの一幕です。



スクールバスの避難訓練。日ごろ使用しない非常扉から逃げる体験を積み重ねていきます。



非常階段を通っての避難。何度も体験して学んでいます。

プール開きについて

先日、今年度購入のプールが届きました。安全に十分配慮し、子ども達と楽しく遊びたいと思います。プール開きを29日（水）に行いました。職員の溺水訓練終了後、天候・気温等を考慮しプールに入ります。お子様の命を守るため、プールカードには毎朝必ず検温結果をご記入ください。（詳細は成長計画案でご確認ください。）保護者の皆様にはお子様の体調管理等、安全なプール遊びへのご協力をお願いいたします。